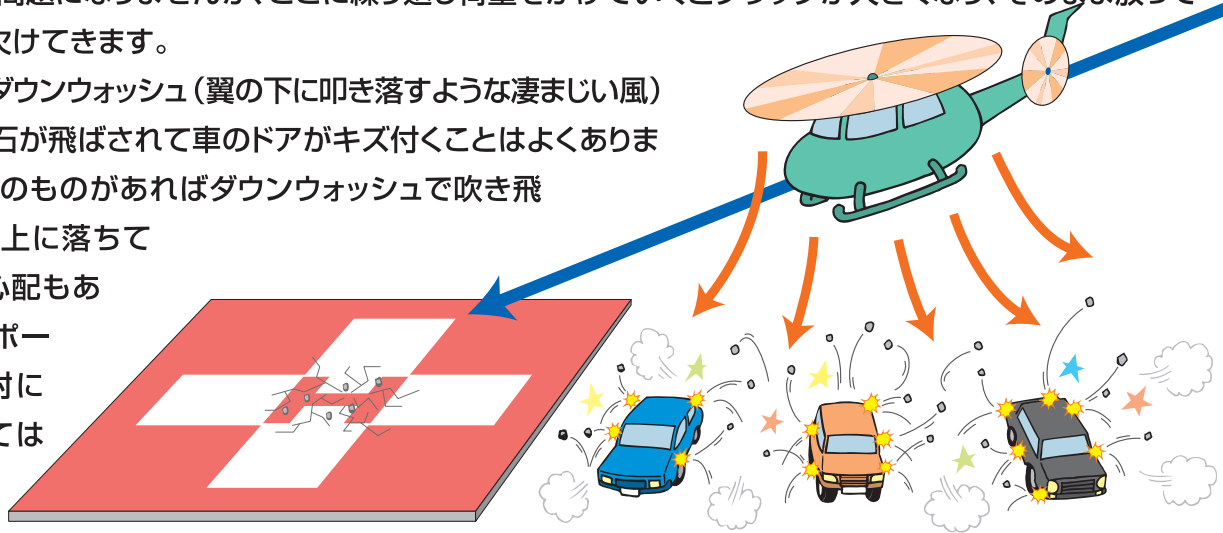


コンクリートヘリポートは、必ずクラックが生じる！

コンクリートは打設後に収縮が始まり、いずれはクラック（ひび割れ）が生じます。ヘアークラックと呼ばれる微細なものはさほど問題になりませんが、ここに繰り返し荷重をかけていくとクラックが大きくなり、そのまま放っておくとクラックが欠けてきます。

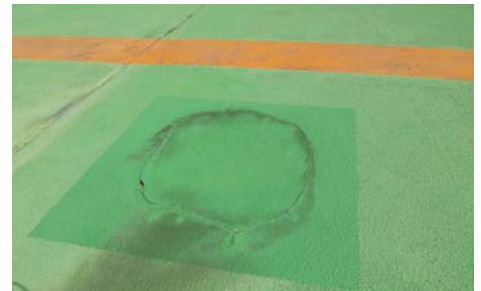
ヘリコプターのダウンウォッシュ（翼の下に叩き落とすような凄まじい風）は強烈で、砂や小石が飛ばされて車のドアがキズ付くことはよくあります。床面に小石状のものがあればダウンウォッシュで吹き飛ばされ、それが地上に落ちて事故につながる心配もあります。高床ヘリポートの床面には絶対に小石を発生させてはダメなのです。



■繰り返し荷重がコンクリートの寿命を縮める



■防水層は必ず剥がれる



■さらに、もっと恐ろしい「鉄筋爆裂」



エアロファシリティ株式会社

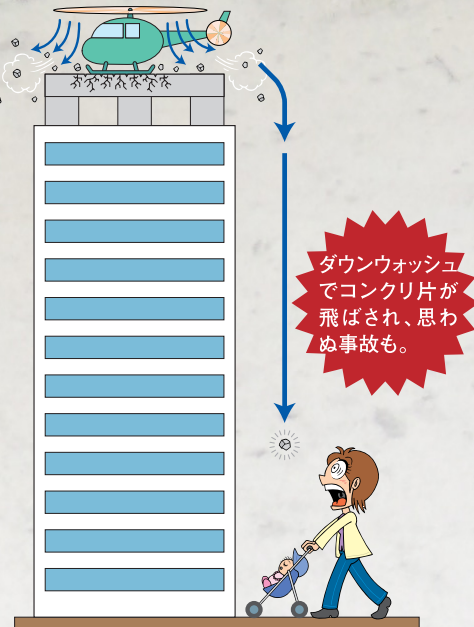
ホームページ <http://www.aero.co.jp>

〒105-0004 東京都港区新橋4-9-1 新橋プラザビル15F

TEL. 03-5402-6884

Fax. 03-5402-6885

ご存知ですか？ ヘリポートの メンテナンスが 大変な理由。



コンクリートは繰り返し荷重が最も苦手

コンクリートは繰り返しの荷重、それも衝撃荷重が最も苦手です。ガタンゴトンと繰り返し衝撃荷重のかかる鉄道橋梁は、コンクリートではなく鉄橋です。自動車道路トンネルではコンクリート剥落事故はないのに、ガタンゴトンの鉄道トンネルでは剥落事故が起こります。繰り返し衝撃荷重がかかるものにはコンクリート構造物は向いていません。それでもコンクリートで造るのなら、地下鉄のように毎日の安全点検をする覚悟が必要です。

「鉄筋爆裂」を起こしたら…

通常、ビルの屋上はコンクリートの上に防水処理を施します。コンクリートに水が浸透するのを防ぐためです。しかし衝撃荷重のあるヘリポートではこの防水処理ができません。簡易防水処理をしてもすぐに剥げてしまいます。防水をしていないコンクリート床はクラックから水が浸透し、やがてコンクリートの中の鉄筋が錆びはじめます。鉄筋は錆びると膨張し、膨らんだ鉄筋がコンクリートを破壊することを“鉄筋爆裂”といいます。爆裂を起したらコンクリート床の強度は著しく低下します。

本当に必要な時は補償がない

コンクリートの経年劣化の曲線は2次曲線です。最初は殆どメンテナンスの必要がないのですが、築10年後からが要注意です。コンクリートヘリポートならゼネコンに30年間クラックメンテの保証を付けてもらうべきですが、ほとんどのゼネコンは5年程度の保証になっています。なぜなら、ゼネコンは「コンクリートは絶対にクラックが生じる」ということを知っているのですから。